

平成 27 年度第 6 回南国市行政計画審議会 議事録 <要約>

日 時	平成 28 年 1 月 28 日（木曜日）13：30～15：10
会 場	南国市社会福祉センター 3 階多目的ホール
出席者	別紙名簿参照(委員 30 名中、25 名参加)
議 題	(1) 第 4 次南国市総合計画（最終案）について (2) 審議会答申（案）について (3) その他
配布資料	<p>《第 4 次南国市総合計画ファイル》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料 1 第 4 次南国市総合計画（最終案） 2. 資料 2 修正箇所一覧 3. 資料 3 審議会答申（案） 4. 資料 4 今後のスケジュール
会議の内容	<p>(事務局) ただいまから第 6 回南国市行政計画審議会を開催する。会長よりご挨拶願う。</p> <p>(会長) これまでの人口ビジョン、総合戦略の議論が一通り区切りを終え、南国市の最上位計画である、総合計画についてこれまでの議論を踏まえ一定の成案を出したい。先日島根県邑南町に視察に行った。日本中で、人口 1 万人以上で、合計特殊出生率が最も高い地域として、この島根県邑南町という所が知られており、なぜここが 2.65 という高い合計特殊出生率を記録したのか拝見してきた。結論は、「子育て日本一の町」を目指すことを内外に向けてアピールをして、それを魅力に感じた住民、移住者の方々が集まってきている。直近の値が 2.07 であるが、そこまで頑張って 2.07 なんだと逆に再認識した次第だ。今日は総合計画の話であるが、その基になる人口ビジョン・総合戦略も真剣に考えていく中で事例や先進的な取り組みを参考にして、ご議論を願う。</p> <p>(事務局) 委員の交代がある。藤村副市長の退任により、後任の平山副市長に交代し、南国青年会議所理事長は杉本様に交代した。お 2 人からご挨拶願う。</p> <p>(平山委員) 今までの議論は後ろの事務局の机で伺っていた。これから精一杯職務を果たしていく。よろしく願います。</p> <p>(杉本委員) 青年会議所は毎年理事長が変わるが、内容はしっかり引き継いでいる。よろしく願います。</p>

(事務局) オブザーバーとして吉川副市長が就任している。

(吉川副市長) よろしく願います。

(事務局) 資料の確認を願う。

<事務局配布資料説明>

(事務局) 議事に入る。審議会条例第6条第3項の規定により会長に進行を願う。

(会長) まず、(1) 第4次南国市総合計画(最終案)についてご協議願う。事務局より説明願う。

<事務局より資料1、資料2を説明>

(会長) 資料1の修正箇所一覧でどのように対応したかを説明した。委員からの指摘事項を反映したという説明であった。修正をした最終案で何かご意見、ご質問は。

(委員) 67ページの中小企業という言葉をつけ加えたということであるが、既存企業の中に中小企業があるのではないか。

(会長) 補足を願う。

(事務局) ご指摘の通りだ。既存企業は中小企業に含まれる。中小企業という表現を先にした方が良いと思う。

(委員) 31ページだが、定期的・継続的な訓練、学習会を支援しますになっている。市が主体的にやるのではなく、地域が実施するものを支援するということか。

(会長) いかがか。

(危機管理課長) 訓練、学習会については、自主防災組織がメインで実施する。その自主防災組織に対しての市から支援をするということだ。

(会長) そのままの意味でとっていただくということになる。最初の質問にはどのように修正するのか。既存企業と中小企業の並列関係がしっくりこないということであるが、いかがか。

(事務局) 文章を整理した方が良いということかと思うが、本日文章を決定していきたい。

(委員) 1つは既存企業の経営支援、2つ目が新規起業者への支援。基本的には既存企業の経営支援と起業支援であるから、2つの表題をまとめた項目になっているのではないか。

(事務局) 指摘の通りだ。既存企業の中に中小企業も含まれる。

(会長) 基本的に既存企業と進出してくる企業の2つだ。少し整理をさせて頂きたい。

(事務局) 指摘の通りであるので、文言の整理を事務局に一任願う。

(会長) お任せ願う。質問があれば。

(委員) 基本計画 41 ページに中心市街地の整備とあり、駅前広場の市街地ということであるが漠然としていて、コンセプトがない。あまり面白くない。老若男女が集まるおしゃれなまちづくり、というような文言を入れれば南国市のコンセプトが見える。どういう市街地づくり、まちづくりなのか入れるべきだ。

(会長) ここは、いろんな意見がある。指摘のところの考え方を事務局から紹介願う。

(事務局) J R 後免駅の駅前広場をロータリー化して、路線バスの乗り入れができるような形にしていく。表現の仕方と受け取ったが、委員の意見も伺いたい。

(会長) 41 ページの指摘だが、40 ページの施策の方針にも同様の文言がある。J R 後免駅前を整備することが1点、整備には、商業機能の集積が具体策として考えられている。目的は、賑わいのある市街地環境の再生と書いてある。要は交通の要衝で交流の拠点だから、そこに商業施設があると

いうイメージではないか。それは当たり前であって特徴がないというご指摘であるが、そこに集めたい人をどんな人にするのか。それはマーケティング戦略であり、どうするのかという考え方が後免駅だけでなく、まち全体に関してもたぶん統一感のある感覚でないといけない。ここをどう捉えるか。委員の考えによるということだ。何か意見があれば。

(委員) この問題は、昔からの課題だ。駅前というのは表玄関という位置づけになると思うが、現在まで後免駅周辺にはそういう機能はない。整備計画を立てるのは行政の責任である。

(会長) 行政がどのようにするのか、市民はどうしたいのか。JRの駅としてみるのか、JRの駅は付帯する機能とみるかによって、考え方が変わってくる。人が集まりやすいところなので、商業施設としておしゃれなものという話もあったが、戦略的に若者、女性、子どもを集めるまちづくりの拠点にしていくのか、考え方は全く違う。IT技術を先取りしながら考えていく必要がある。いろんな意見があると思うが、10年間の計画なので、社会も変わる。漠然としておくことによって、議論の可能性を残しておく見方もできる。いかがか。

(委員) 路面電車をJRの駅に直結させれば交通の要衝としての位置づけがはっきりする。そこから開発が進んでいくのではないか。

(会長) 中心市街地の整備であると同時に、公共交通機関のあり方と捉えることができる。いかがか。積極的改善案はないか。指摘の内容は議事録に残る。公共交通機関のあり方、まちづくりの拠点としての戦略的位置づけを今後、議論の継続をしていただく。

(委員) 67ページの3番は私が言った地場企業に対する経営支援が記載された。一歩前進である。経営支援と起業支援という言葉が既存企業両方にかかっているからおかしい。例えば、既存企業への経営支援と起業家及び起業への支援の推進にすれば、2本立てになっていることがはっきりする。せっかく既存企業に対することが盛り込まれたが、成果指標が全て新規企業に対してのことである。ここは何とかすべき。表現を変えただけで基本的な気持ちが変わっていない。全体の底上げをすることを、成果指標に求めてはどうか。前回、市広報紙が市外のものには読む機会がないと指摘したが、12月から会社に広報紙を送付していただけるようになった。ありがたく、御礼を申し上げる。

(会長) 既存企業と進出企業についてと、経営支援と起業支援について違和感があるという話だ。起業もベンチャー創立や第二創業だったりする。いろいろなケースが出てきている。これから10年先の総合計画のことを考えると、更に多様な形態を念頭に置かなくてはならない。想定を超えるようなものも出てくるだろう。参考にしつつ、検討を更に重ねてほしい。KPI、成果指標としてご意見を反映するかも検討する必要があると思われる。

(事務局) 検討させていただく。

(会長) 消極的改定であれば既存企業プラス進出企業の合計のKPI。積極的であればプラスオンになる。最終的な結論は事務局にお任せ願う。

(事務局) 基本計画の成果指標は5年間変わらない。来年度これに基づく実施計画に具体的な政策を盛り込む。その際に数値的な目標も個別設定していく。

(会長) 他、いかがか。

(委員) 43 ページ(5)の公園を活用したふれあい交流活動の充実とある。吾岡山文化の森を市民のふれあい交流拠点と位置づけ、施設を活用したイベントの充実に努めるとあるが、我々も保育祭りで毎年使わせていただいている。駐車場のスペースが狭い。イベントごとに大渋滞が起こる。使い勝手が悪い会場になっている。整備はしないのか。

(会長) いかがか。

(事務局) 吾岡山文化の森は空港拡張の際、吾岡山をカットするということがあった。渋滞が発生することは承知している。改良するとなると、難しい部分がある。意見として伺うが、改良するか具体的なものは無い。検討はする。

(会長) ここは環境保全、景観形成と公園・緑地の整備である。ハード的な整備について施策の方針と主要施策が出て、(5)や(6)ではなぜかソフト的な話になっている。それで違和感がある。拠点を充実させていくときの環境整備に対して触れているような文言があれば、ここを検討する組上になっていることが意識されるのかもしれない。

(事務局) 環境の問題からスタートしている。景観も含めて。

(会長) この内容をどう受けるかにより、検討すべきかどうかが決まってくる。7. はハード的な整備、その中に吾岡山というのがソフト的なシンボルとして書かれているということだ。環境整備も当然検討すべきだという捉え方があるのではないか。そうみなしていただけるのであればこのままでよい。指摘されたことは記録に残る。納得いただけるか。

(委員) 農林業の振興のところで書くかどうかはわからないが、各集落で水路の維持管理をしている。水路が未整備のために非常に労働力を必要とするところがある。水路整備が基本計画に載っていない。

(会長) 64、65 ページの農林水産業の振興で、特に担い手に関わる部分も考えられるが、いかがか。

(事務局) 今現在、国営の圃場整備事業でやっている部分もある。農林水産課長から答弁する。

(農林水産課長) 田役、農道水路の整備、土上げ等のことについては、農業振興地域の農用地区域で多面的機能支払交付金事業で国、あるいは県の補助金で事業を進めている。言われるような岡豊地区や農用地区域に入っていない所は、その作業自体が該当しない。当然、自分たちの自己負担でやらなくてはならない。ただ、農林水産課としてできるのは、そういう事業を使う、あるいは圃場整備事業によって農地、指定水路、農道の整備を行い、効率的な農業が行われるかを進めていくことだ。ただ、いかに農地を整備しコストを下げても、大規模農家だけに農業が集中すると、集落は保っていけない。地元の小さな兼業農家、家族農家が農地とともに集落を保っていくことが重要だ。何とかしてもらいたいというのも、南国市としても協力をしていきたいとしか答えられない。

(委員) そこに荒廃する耕作放棄地が広がってくる。それが私の何とかできないうことだ。

(会長) 今から一次産業の農業に関わらず、現場の担い手をどうしていくか。これからますます担い手が不足し、農業の場合は耕作放棄地、休耕地が広がる。根幹の部分をもどのように防止していくのか。誰がやるのか。色々な考え方が出てきたが、いずれにせよ担い手が不足していることは、65 ペ

ージにも書かれている。今後これをどう強化していくか。新規就農者の増加は県の産業振興政策でも取り組み、300人まで上がってきている。南国市でもそこを強化しながらという点を踏まえ、今のような思いがこの中に入っているという認識を持てるのではないか、あるいは持っていくべきではないか。

(農林水産課長) 64 ページで人・農地プラン見直しとした。平成 24、25 年に南国市全体でプランを作った。これを毎年ローリングで直していこうというものだ。どう担い手を育てていくか。農地、水路の補修等や部落をどう守っていくかはこの計画の中で詳細にしている。

(委員) 一種農地で開発行為を一切禁止したのならば、同じように水路も行政の補助を入れて整備するのが当然ではないか。なぜ南国市が一方的に農地変更の禁止を受け入れたのかが根本的な問題だ。

(会長) 人・農地プランの見直しというのは、実際に協議の場を設けられるのか。

(農林水産課長) プランの見直しというのは毎年義務づけられている。年 1 回見直している。平成 24、25 年は青年就農給付金をターゲットに作ったもので、担い手に関してははっきりとは記載されていない。毎年見直す中で、詳細に渡って見直す。対応はできる。

(会長) そういう場を活用して、今後継続して協議願う。事務局からコメントがなかったが、パブリックコメントの結果について説明願う。

<事務局よりパブコメについて説明>

(会長) 今回は人口ビジョンや総合戦略に比べ期間を少し長めに設定したが、積極的な意見は出てこなかった。他、よろしいか。いくつかの指摘事項は、文言の整理を事務局が行い、それらの意に沿った形で訂正をするということで事務局一任の形でそれを最終案とさせていただいてよろしいか。では、一部修正をした内容をもって、最終案とさせていただく。それでは次に(2)の審議会答申(案)についてご協議願う。事務局より説明願う。

<事務局より資料3を説明>

(会長) 読み上げた答申案を南国市行政計画審議会として市長に答申する案をお諮りする。

(委員) 今日を含めて6回の審議会で審議した問題は行政執行機関がどう人、地域、まちを発展させていくかということをしっかり肉付けをしてもらいたい。行政機関が全知全能を絞って実現に向けて推進願う。

(会長) 委員、共通の想いだ。後半にあった連携とか協働という言葉が鍵になっている。行政に丸投げすることなく、市民がより積極的に市政に参画し、どうするかという視点で南国市の英知を結集し、共に汗を流してほしい、と書き添えてあるつもりだ。最終的にこの答申内容で市長に答申をするということで承認いただけるか。その他を、事務局より説明願う。

<事務局より資料4を説明>

(会長) 今後のスケジュールについて質問は。よろしいか。また来年度、進捗管理をこの委員会でお願ひしたいということだ。市民におかれては、南国市版のまち・ひと・しごと創生総合戦略ならびに総合計画がしっかり動くように当事者としてかかわりを持っていただきたい。この委員会を通じ、まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画の策定といった大変重い役割を担った訳だが、委員の協力によって一定の期限内にゴールに到達することができた。これも委員のご協力、ご理解、ご支援のおかげであったと深く感謝を申し上げる。今後、来年度に開催することになるが、引き続きよろしくお願ひを申し上げる。

(事務局) 答申は2月4日に会長から市長に渡していただく予定である。

以上